

新執行部による学長への挨拶

2021年11月16日（火）12時15分から森迫学長に役員交代に伴う新執行部からの挨拶を行いました。組合からは比村委員長、櫛副委員長、一ノ瀬副委員長、木谷書記長、山田書記次長、三宅書記次長が出席し、法人側からは森迫学長、小酒井事務局長、吉本理事、岡田人事労務課長他が出席されました。

冒頭、学長より、国立大学の置かれた状況を鑑み、第4期中期目標・中期計画における6年間の進め方が、(1) 本学から文科省に提案する形から文科省から本学が指示内容を受け取り、それに沿った研究活動を行うこと、(2) 本学は工業大学の1つとみなされ、その中で相対的な評価がなされること、(3) 特定研究大学（仮称）に配分される基金は本学には配分されない見込みであること、の3点が説明されました。これらは、これまでとはまったく異なる環境に本学がなっていくことを強く示唆しています。

組合からは先日のアンケートに寄せられた意見を学長に伝えました。リーダーシップがトップダウンにすり替えられていると感じられるケースが多いため、現場の声が反映されにくく、閉鎖的で風通しの悪い雰囲気があることを伝えました。それに対して学長は、できるだけ改善していきたいが、教職員の不安や不満、要求・質問事項のすべてに応えることはできないと述べられました。

組合からの要求と、学長および法人側の回答の位置づけについても議論が行われました。2021年7月14日、8月4日に職員組合より学長へ提出された7つの質問と16の要望事項に対して、8月30日に学長より委員長へ提示された回答書について、双方での認識の相違が確認されました。経緯を以下に説明します。

- 8月30日に学長から委員長へ回答書が手渡されました。その場で、この回答書は学長個人からのものであること、また、回答書が部外者に流れることのないように慎重に扱うことが確認されました。
- 同日、学長から課長・学域長、学系長、センター長へと回答書のメール配布が行われました。
- 組合は、回答書が部外者に流れないよう慎重に取り扱う方法を考えていましたので、学長からそれら役職者へのメール配信の結果、回答書が学内のどこまで展開されるか様子を見ることにしました。
- 1か月後、回答書の展開は限定的であり、全教職員に届いていないことを確認しました。
- そこで、組合は、回答書に対する組合員の評価を集めた上で、組合より全職員へと配布する準備を進めていました。
- 11月16日の挨拶時に、学長が役職者に回答書をメール配信したのは、役職者は非組合員であることが多いだろうから、役職者に回答書に関する質問が寄せられる場合に備えてもらうためだったと理由が述べられました。そのため、組合から回答書が展開されていないことに疑問を抱いているとも述べられました。また、組合からの質問・要求が法人宛のものか学長個人のものか判断できなかったため、学長個人の回答書であると再度明言されました。

質問および要求書と回答書の位置づけ、また回答書の取り扱いに対する認識の違いが労使双方で共有されました。そこで、2021年7月14日、8月4日に職員組合より学長へ提出された7つの質問と16の要望事項に対し、8月30日に学長より委員長へ提示された回答書をメールで展開いたします。**この回答書に対する評価については、現時点で集まっているものを共有します。**組合は、この評価をさらに多くの構成員から集めることを検討しています。

組合は、原則として組合員の声を集め、組合員を守るために法人に要望や要求を出していきます。言いたい事や、悩み、身近な問題、些細なことでも結構です。組合までお寄せください。全国の状況などもくみあいニュース等でお伝えします。

・連絡先：kitu-info@laborunion.xsrv.jp、フォーム：<https://forms.gle/xNYPwweCy8LoWVNKA>